

事業概要

補助事業番号 23-1-069

補助事業名 平成 23 年度 国内スポーツ競技力向上のための 補助事業

補助事業者名 特定非営利活動法人 サイクリストビュー

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

サイクルスポーツの啓発普及およびイベントの振興のため、島根県の自然を活かした地点往還グランfond・ロングライドや、手つかずの山林道をそのまま活用するヒルクライムレースなど、全国のサイクリストが気軽に参加できる大会を毎年開催することにより認知度を高め、国内外からの有名プロ選手を招待し、よりサイクリストに魅力的な事業となるよう、また、島根県にとどまらず全国各地で同じような大会を開催することにより、日本全体のサイクリストの拡大・発展、サイクルスポーツ事業の振興をもって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

ア. 石見グランfond 2011

昨年同様、今回もグランfond からイメージされる険しい峠道の連続は、「200 キロ・190 キロ」コースでは変わらず設定 しており、累積標高は 3.300mオーバーという西日本屈指のハイレベルなコースレイアウトに設定。200 キロ完走を目指しても、制限時間に間に合わなければ足切りとなり、自動的に 190 キロ・140 キロに迂回する事になる。一方、140 キロのコースは、前半部分からロングコースとは離れ、あくまでも初心者・中級者に向けたサイクリングコースとして設定。

コースの選択は事前に申請するのではなく、走りながら選択することが可能とした。前年よりも、79 名増加し、563 名という過去最高の参加人数となった今回の大会は、受付からスタート後、第 2 エイドステーションまでは霧雨の中の走行になったものの、その後は快晴になった。



参加者のペースは、第2エイドステーション以降、上向きになったものの湿度が高い中、路面の濡れにも気を遣いながらの走行であり、神経を使う走行を余儀なくされる箇所もあった。



第4エイドステーション以降は、大きな落車も少なく、多くの方がロングコースを選択され、結果、200キロ完走数は過去最高となった。



(※制限時間切れの 190 キロ完走数も同じく過去最高) 沿道には多くの地元住民の皆様の声援が溢れ、出発点である久手地区では、運営に参画する動きも生まれ、地域が一体となった大会へと発せようとする、地域住民の機運が醸成されてきている
詳細報告HP

<http://www.plusvalue.co.jp/cyclistview/iwamiride2011.html>

参加人数 563 名 前年対比 116.3% 出走数 521 名 欠席 42 名

イ. 出雲路センチュリーライド 2011

昨年のコースを継承しつつ、松江市八雲町に新たに建設された農道をルートに加えたことと、第4ASを松江市役所八束支所に移したことにより、微妙なコース変化を加えて大会を実施。コース設定の微変更により、今年のコースは約163kmと昨年より約2km延長となった。コンセプトは、「グランfondより容易で、平地だけでなく、起伏に富み、自然を満喫しながら楽しめる大会」です。また、ASでは地元の方との触れ合いと地元食材を堪能していただけるよう配慮し、2ASと第3ASの中間部に地元の方が利用するコミュニティセンターにて、天然水の給水所を設定する。



当日は、前日の大雨がとりにあらずは上がったものの、降雨の予感がする曇り空の中スタートする。参加者は、皆、雨天対策の準備をして、自転車の調整を行う方が多かった。スタートしてしばらくは小さいアップダウンの連続。誘導サインと立哨員により大きな問題もなく通過する。その後、第2ASまでは、パンク車両が多く見受けられるも、スタッフのフォローにより大事に至らなかった。



午後2時以降、局地的に雨が降り、場所によっては雨中の走行をしざるを得ない参加者も散見されたが、大会は大きな事故やケガもなく定刻にてリタイア者を除く全員が完走する。

地域との効果的な連携を図る目的で、今年度より地元大学のサイクリング部の学生や、走行する地域の方々に運営の一部をご協力いただいた。参加した方々にも、多くの県外者をおもてなす意味での関わりを意識していただく機会となり、一定の結果と理解が得られたと認識している。

詳細報告HP

<http://www.plusvalue.co.jp/cyclistview/izumoji.html>

参加人数 590名 前年対比 94.7% 出走 505名 リタイア数 42名 (完走率 91.7%)

ウ. 雲南サイクルチャレンジ 2011

大会1日目は、さくらおろち湖特設コースにて、MTB2 時間耐久レースを開催する。今回ソロエントリーが9名、ペアエントリーが6名3組でのスタートとなる。13時より定刻通りのスタートとなった。今回、さくらおろち湖特設コースを初めて使用するものであったが、特に大きなトラブルもなく、参加者は順調に周回を重ねていき、定刻で大会は終了となった。



途中、タイヤパンクの為、パンク修理スタッフのサポートを受けた参加者もあったが、皆元気にゴールとなった。リタイアもなく、参加者の笑い声、応援者の声援が大会を盛り上げてくれた。

大会2日目は、今年で3回目となるグルメfondサイクリングを実施。小雨が降る天候ながらも、定刻通りのスタートで、順調にコースを進む。六重地区での最初のエイドステーションから、地元の食が満載であり、続く、第2エイドステーション「たまごかけごはんシンポジウム」会場 お腹いっぱい、たまごかけごはんを食べて満悦な表情の参加者が多数。復路では、菅谷たたら跡で、しばし休憩、観光をして雲南の楽し

みつつ 一路、参加者全員でゴールを目指した。



ゴールでは、奥出雲葡萄園のグルメバイキングがあり、最後まで雲南の 食の魅力を満喫できたイベントとなった。小雨による体温低下の懸念があったものの、大きなトラブルもなく終了した。



詳細報告HP

<http://www.plusvalue.co.jp/cyclistview/unnancycle.html>

参加人数 69 名 (2 日間計) 前年対比 98.6% 出走 59 名 (2 日間計)

エ. 飯南ヒルクライム 2011

コースは全長 13 km、標高差 600mではあるが、前半に激しいアップダウンがあるため、トータル標高差は 700m以上のコース。前半の起伏の激しい二車線路、中盤の森林浴を楽しめる谷沿いの道、そして後半の険しい道とパノラマ絶景が、参加者を心から魅了します。第 1 回から 5 回目の大会まで、全て同じコースを使用して大会を開催。コースを変えない理由として、この大会は競技ですが、参加者は順位よりタイムを重要視しており、自己記録の更新やクラス別の大会記録を意識するためである。



今回は 174 名がスタートして、夏の晴天の中、全員が規定時間内にゴールした。暑い時期のため、比較的涼しい 8 時台にスタートして、全員が 10 時までにはゴール。ゴールでは、地元ライオンズクラブの好意でメロンやスイカを振る舞っていただき、参加者達に好評だった。下山してメイン会場に戻ると、軽食サービスを行い、11 時頃から表彰式を開始し、11 時 45 分には全日程を終了した。



大会前夜には町内宇山地区の協力で前夜祭を行い、参加者同士や地元住民との交流を深め、より地域に密着した大会となっている。

スタート地点や中盤の激坂付近では、多くの住民の声援があり、参加者達を後押しして、ペダルを踏み込む脚にも力がはいったようだ。大会の運営では、協力していただく人々やより団体が増え、地域一体となった飯南町の夏の恒例行事として、広く認知されるようになった。

詳細報告HP

<http://www.plusvalue.co.jp/cyclistview/iinanhillclimb.html>

参加人数 185名 前年対比 92.0% 出走 174名（全員完走）

2. 予想される事業実施効果

ア. 石見グランfond 2011

石見地方の3市3町のシンボルでもある世界遺産「石見銀山」周辺を走る唯一のグランfondとして、認知は完全に全国区となり、次年度以降は、より参加者が増えるよう魅力あふれるコースメイクを企画していく。具体的には、人気のある周回コースをより満足度の高いコースレイアウトに変更する事や、参加者の利便性を高め、スケジュールに余裕を持って参加できるよう配慮する事、受け入れ体制のさらなる拡充である。

また、次年度はスタート会場である大田市及び久手地区との連携による、田舎らしいおもてなしの拡充を図りながら、大会を地域の財産として盛り上げていく事を検討中である。

イ. 2011 出雲路センチュリーライド

2年前よりセンチュリーライドとして、よりロングライドを楽しめるよう、コースを大幅に変更して、比較的アップダウンの少ない内容にして開催した。開催自治体の関心度も非常に高く、地域の良さや、地域のイベントとの効果的な連携が図れ、参加者に大きな地域の魅力を提供できた大会になってきた。また、サテライト山陰とも本大会と競輪とのコラボレーションを実現し、休憩所をサテライト山陰で開設して、競輪のPRを同時に行った。また関連する地域の経済界でも、注目され、確実に評価されるイベントになってきており、出雲路広域の代表的な町おこしイベントとしてさらなる成長していく事は間違いない。

ウ. 雲南サイクルチャレンジ 2011

大会参加者数は昨年よりは大幅に増加してはいるが、昨今のマウンテンバイクの人気低下による影響が大きい事認めざるを得ない為、まだまだ満足できる規模にはほど遠いものがある。一方、雲南らしい新しい企画として、日本ではまだまだ珍しい「グルメフォンド」は前回の同程度の参加者を集めた。参加者の県外比率が75%と高く、経済効果が高いと思われる。

エ. 飯南ヒルクライム 2011

飯南町で5年目となり、中国地方随一のヒルクライムレースとして、参加人数も計算できるようになってきた。本年は参加者も多く集い、飯南町内の評判も昨年以上に大変良いものであった。大会の前後でもコースを楽しもうと町を訪れるサイクリストも増え、地域が自転車による地域振興に大いなる期待をもっている。地域経済が疲弊した中山間地域の田舎町に、自転車という希望の光を提供している。今後はよりいっそう飯南町の自転車振興に貢献したい。

3. 本事業により作成した印刷物等

①石見グランfond 2011

開催告知チラシ（印刷枚数 30,000 枚）

開催告知ポスター（印刷枚数 500 枚）

なつかしの石見 CYCLIST VIEW
石見グランfond 2011
(通称:石見ライド)

開催日時
2011年5月8日 日
石見山崩住瀬コース 200K
三車カットコース 190K
ショートコース 140K

自然と歴史を満喫できる、石見の美しい風景が広がる。石見の歴史と自然を満喫できる、石見の美しい風景が広がる。

自転車を運転される方、沿道の歩行者の方は、コースを走行する参加者にご注意ください。参加者への応援もよろしくお願ひします。

特別の記念品
コースマップに別添しては、コースマップを1冊プレゼント。高品質の記念品が待っています。

NPO法人サイクリストビュー
〒691-8501 島根県松江市大森町2-2-20
TEL:0852-21-5425
FAX:0852-21-5426
E-mail: info@ringing-kain.jp
http://ringing-kain.jp

②飯南ヒルクライム 2011

開催告知チラシ（印刷枚数 5,000 枚）

開催告知ポスター（印刷枚数 400 枚）

全長13キロ、高低差600m、中国地方最大級のヒルクライム。

2011年7月17日 日 8:00~12:00

島根県 **飯南ヒルクライム2011**

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.ringing-kain.jp

参加費
個人 5,000円
団体 3,000円
平成23年 6月24日(金)

NPO法人サイクリストビュー
〒691-8501 島根県松江市大森町2-2-20
TEL:0852-21-5425
FAX:0852-21-5426
E-mail: info@ringing-kain.jp
http://ringing-kain.jp

③出雲路センチュリーライド 2011

開催告知チラシ（印刷枚数 9,000 枚）

開催告知ポスター（印刷枚数 1,000 枚）



- ④雲南サイクルチャレンジ 2011
- 開催告知チラシ (印刷枚数 5,000 枚)
- 開催告知ポスター (印刷枚数 500 枚)



4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名：特定非営利活動法人サイクリストビュー

住所：690-0044

島根県松江市浜乃木六丁目 26 番 5 号

代表者：代表理事 森脇 博史 (モリワキヒロシ)

担当部署：本部(ホンブ)

担当者名 : 代表理事 森脇 博史 (モリワキヒロシ)

電話番号 : 0852-21-3920

F A X : 0852-21-3904

E-mail : infoncv@plusvalue.co.jp

U R L : www.plusvalue.co.jp/cyclistview